



「帯方の東南 大海の中に倭人あり。……南して投馬国に至る。水行二十日。……」魏志倭人伝にこのように描かれている投馬国は ここ宮崎県西都市の 妻のことではないかと言われています。 広く発達した 台地の上に点在する無数の古墳群から ここ日向はまさに神話の国との思いを強くさせます。

さて「妻及び高鍋」図幅地域は宮崎県の中央を広くしめる宮崎平野の北部に位置しています。 本地域は 行政区分では西都市 宮崎市 高鍋町 佐土原町 新富町 木城町 川南町 国富町 綾町 西米良村にまたがっています。 本地域の北西部は九州山地に属し 1000m級の急峻な山地になっています。 しかし 本地域の大部分は台地の発達した平野からなっています。 両者の間のこの 差は本地域の地質が両者の間で異なることによります。 山地は古第三系の 四万十累層群に 属する地層で形成されています。 これにたいし 平野部には新第三紀の海成層である宮崎層群が広く分布しています。 この宮崎層群を覆って発達する 第四系段丘堆積物は 多くの段丘を形成し いくつかの段丘面に区分されます。 宮崎層群と 段丘堆積物の間には 第四紀の氷期に形成された谷の中に間氷期に 堆積した小丸川層と通山浜層が発達する部分があります。

宮崎層群中の鍵層となる 垂水凝灰岩が全域に渡って追跡された結果 瓜生野層と本庄層の砂岩は 妻層の泥岩と 指交関係にあることが明らかにされています。 また 宮崎層群の最上部において海底地入り堆積物および 海底谷埋堆積物の 存在がはじめて明らかにされました。 各段丘面の関係は ローム堆積物中に含まれている火山灰鍵層の 対比によって 明確にされており 第四紀の構造運動が 解明されています。 この他多くの 野外調査の成果が盛り込まれ 従来明らかでなかった点や 今明らかになった点が多く示されています。

「妻および高鍋」図幅が刊行されたことにより 宮崎層群の分布域の地質図幅はほぼ 全域完成した ことになりました。 今後の研究や開発にこれらの地質図幅が 基礎資料として 利用され

ることになると思われます。 引き続き本地域の北隣の「尾鈴山」図幅地域の調査が予定されています。

本図幅は今まで地質調査所で 刊行している 5万分の 1地質図幅の中で最も広い陸域をカバーしています。



5万分の1地質図幅の新刊

妻 及び 高 鍋

TSUMA AND TAKANABE

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著 者 遠藤秀典・鈴木祐一郎  
 発 行 工業技術院 地質調査所  
 取 扱 先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401  
 そのほか全国主要書店  
 販売価格 3,570円

地 質 ニ ュ ー ス	第 391 号	3 月 号
	定 価 ￥ 630	千 実 費
昭和62年3月1日	発 行	
編 集	工業技術院地質調査所	
発 行人	林 久 雄	
発 行 所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒 102	
	Tel. (03)265-0951 (代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	